

令和4年（2022年）版

# 杉並区の交通事故概要

（令和4年1月～12月）

杉 並 区

杉並区交通安全協議会

## 交通安全杉並区宣言

近時、車両運行の急激な増加にともない、区内における交通事情は悪化の一途をたどり、事故は日とともに激増の傾向にあることは、まことに憂慮に堪えないところである。

杉並区は人命を尊重し、区民の生命財産をまもり、区内における交通事故の絶滅を期するため、これが施策を推進することを決意し、ここに交通安全都市を宣言する。

昭和40年3月31日

## は じ め に

令和4年は、政府が新型コロナウイルス感染症の感染拡大を防止しながら、社会経済活動を継続するため、行動制限の緩和の取組を推進する中、杉並区内の交通事故発生件数は、令和3年より6件増加して893件となりました。負傷者は18人増加して1,018人、死者は2人減って4人でした。

杉並区の交通事故発生件数は、この10年間でほぼ半減しましたが、ここ数年はやや増加傾向にあります。また、近年の環境保全に対する意識や健康志向の高まり、新型コロナウイルス感染症の感染防止対策から公共交通の利用を避けた自転車の利用が増え、交通事故全体に占める自転車関与事故の割合が増加しています。

このような状況の改善には、交通事故の特徴を把握し、効果的な交通安全施策を地道に継続していくことで交通事故を減少させ、区民の皆さんが、安心して、快適に暮らすことができるまちにしていかなければなりません。

本書は、令和4年中の交通事故発生状況をまとめたものであり、今後の交通安全施策並びに交通安全教育を推進していく上の資料として、広く活用していただき、交通事故防止の一助となれば幸いです。

なお、本書の作成にあたり、資料の提供等、多大なご協力をいただきました、各関係機関の皆様には厚く御礼申し上げます。

令和5年3月

都市整備部 杉並土木事務所

# 目 次

序

はじめに

目 次

用語解説

## 第一章 全国・東京都・杉並区における交通事故発生状況

- 1 交通事故発生件数・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・1  
(参考) 23 区の交通事故発生状況・・・・・・・・・・・・・・・・・2
- 2 交通事故による死者数・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・3
- 3 交通事故による負傷者数・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・4

## 第二章 杉並区における交通事故発生状況

- 1 死亡事故の発生状況・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・5  
(1)死亡事故の概要  
(2)当事者別・年齢別死亡事故発生状況
- 2 道路種別交通事故発生状況・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・7
- 3 当事者別交通事故発生状況・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・8
- 4 年齢別交通事故発生状況・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・9  
(1)年齢別交通事故発生状況  
(2)子どもの交通事故発生状況  
(3)高齢者の交通事故発生状況  
(4)若年層の交通事故発生状況
- 5 事故類型別交通事故発生状況・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・12  
(1)事故類型別交通事故発生状況  
(2)事故類型別交通事故発生状況の内訳
- 6 昼夜別交通事故発生状況・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・14
- 7 時間帯別交通事故発生状況・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・15
- 8 車両側の違反による交通事故発生状況・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・16
- 9 歩行者の違反による交通事故発生状況・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・17

### 第三章 杉並区内各警察署管内における交通事故発生状況

- 1 杉並警察署管内・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・18
  - (1)交通事故発生状況
  - (2)路線別交通事故発生状況
  - (3)当事者別交通事故発生状況
  - (4)年齢別交通事故発生状況
  
- 2 高井戸警察署管内・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・20
  - (1)交通事故発生状況
  - (2)路線別交通事故発生状況
  - (3)当事者別交通事故発生状況
  - (4)年齢別交通事故発生状況
  
- 3 荻窪警察署管内・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・22
  - (1)交通事故発生状況
  - (2)路線別交通事故発生状況
  - (3)当事者別交通事故発生状況
  - (4)年齢別交通事故発生状況

## 用語解説

本書で使用している主な用語の意味は、以下のとおりです。

交通事故	……	道路交通法第2条第1項に規定されている道路において、車両、路面電車及び列車(軌道車)の交通によって起こされた、人の死亡又は負傷を伴った事故及び物的損害を伴った事故をいう。 但し、本書には人身事故のみを計上している。
人身事故	……	交通事故により人の死傷があったものをいう。
死亡(死者)	……	交通事故発生から24時間以内に死亡した場合(人)をいう。
重傷(重傷者)	……	交通事故により負傷し加療日数が30日以上の場合(人)をいう。
軽傷(軽傷者)	……	交通事故により負傷し加療日数が30日未満の場合(人)をいう。
負傷(負傷者)	……	重傷(重傷者)と軽傷(軽傷者)の合計をいう。
当事者	……	交通事故に関係した人をいうが、車両等が関係した事故の運転者については、運転中の車両等を当事者としている。
第1当事者	……	過失(違反)がより重いか又は過失(違反)が同程度の場合は、被害がより小さい方の当事者をいう。
第2当事者	……	過失(違反)がより軽いか又は過失(違反)が同程度の場合は、被害がより大きい方の当事者をいう。
子どもの事故	……	幼児、小学生、中学生が関与した交通事故をいう。
若年層の事故	……	中学校卒業後から25歳未満までの年齢層の人が関与した交通事故をいう。
高齢者の事故	……	年齢65歳以上の人に関与した交通事故をいう。
昼夜の交通事故	……	昼は日の出から日没までをいい、夜は日没から次の日の出までをいう。
事故類型	……	事故をまず当事者の種類(人または車両)によって類型化し、次いで、当事者の事故時の行動(動き、位置、衝突物等)によって更に細かく類型化したものをいう。

- 1 本書は、警視庁集計の交通事故統計表及び警視庁総務部文書課提供の交通事故統計資料に基づき作成しました。
- 2 全国と東京都の数値には、高速道路の交通事故が含まれています。
- 3 各表欄外に「発生件数は第1当事者、第2当事者の合計数である。」とある表においては、交通事故一件における第1当事者及び第2当事者のそれぞれを計上した数値であり、交通事故発生件数とは異なります。
- 4 各警察署管内における交通事故発生状況の数値は、各警察署において取り扱った件数であり、図表中及び文中の数値と一致しない場合があります。
- 5 図表中及び文中の構成率、割合については、小数点第二位で四捨五入したため、図表中及び文中の数値と一致しない場合があります。

# 第一章 全国・東京都・杉並区における交通事故発生状況

## 1 交通事故発生件数

- ①全国は 301,193 件で、前年より 4,003 件(1.3%)減少した。
- ②東京都は 30,170 件で、前年より 2,572 件(9.3%)増加した。
- ③杉並区は 893 件で、前年より 6 件(0.7%)増加した。

図1 交通事故発生件数の推移  
(平成30年を100とした場合)

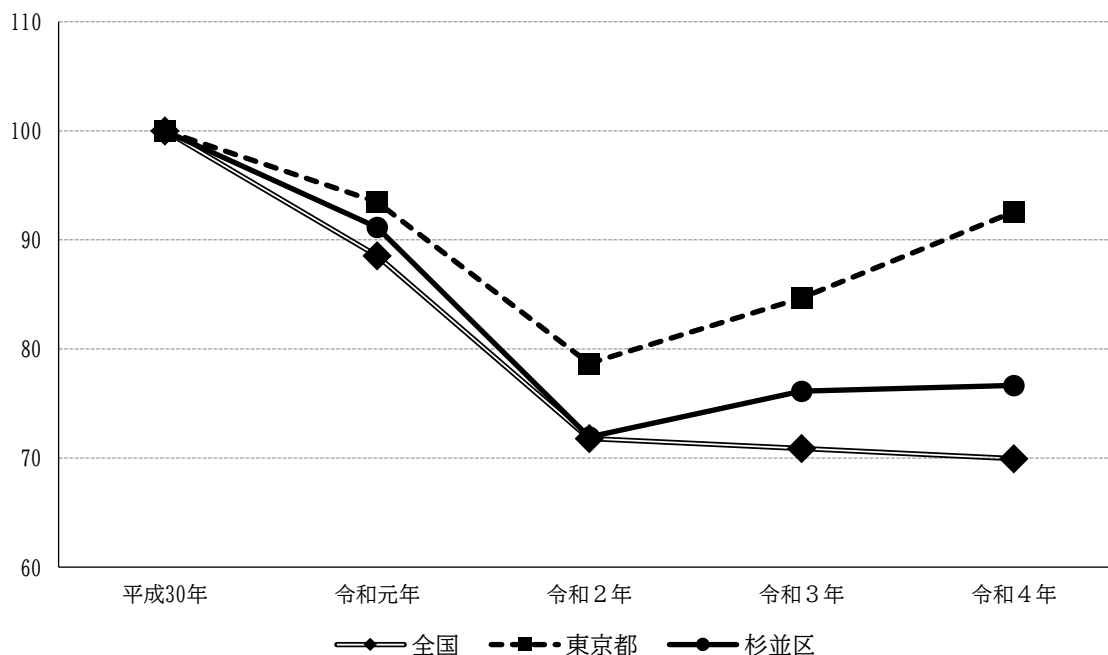


表1 交通事故発生件数の推移

		平成30年	令和元年	令和2年	令和3年	令和4年
全 国	件数	430,601	381,237	309,178	305,196	301,193
	指数	100.0	88.5	71.8	70.9	69.9
東 京 都	件数	32,590	30,467	25,642	27,598	30,170
	指数	100.0	93.5	78.7	84.7	92.6
杉 並 区	件数	1,165	1,062	838	887	893
	指数	100.0	91.2	71.9	76.1	76.7

※全国の発生件数は、警察庁の統計表(令和5年1月4日)の数値である。  
 ※令和3年の全国の発生件数及び平成30年の東京都の発生件数は遡って修正された。  
 ※交通事故の認定状況により、集計時点での数値が異なる場合がある。

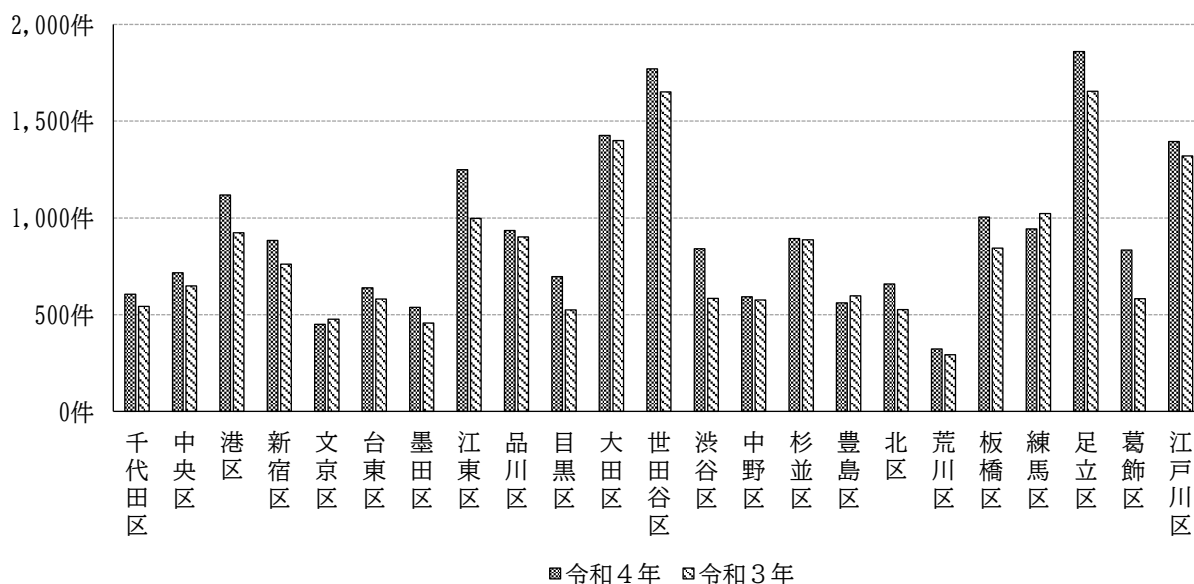
(参考) 23 区の交通事故発生状況

表 2 23 区の交通事故発生状況

	発生件数	増減数	死者数	増減数	負傷者数	増減数
千代田区	606	+64	3	±0	693	+109
中央区	716	+68	2	+1	812	+97
港区	1,119	+195	2	+1	1,232	+169
新宿区	883	+122	4	+2	999	+172
文京区	450	-26	2	+2	482	-26
台東区	638	+57	2	+1	696	+56
墨田区	537	+81	1	-2	573	+71
江東区	1,250	+252	2	-6	1,348	+240
品川区	934	+32	1	-1	998	+24
目黒区	696	+171	4	+4	738	+154
大田区	1,426	+26	10	+3	1,544	-2
世田谷区	1,771	+119	9	+1	1,945	+101
渋谷区	840	+256	5	+1	917	+260
中野区	592	+16	3	±0	623	+11
杉並区	893	+6	4	-2	1,018	+18
豊島区	561	-36	1	-4	603	-47
北区	658	+132	4	+2	695	+130
荒川区	323	+31	1	-1	348	+36
板橋区	1,005	+161	7	+1	1,108	+177
練馬区	943	-80	9	+5	1,052	-84
足立区	1,859	+205	10	+2	2,001	+206
葛飾区	834	+252	4	+2	888	+241
江戸川区	1,395	+74	4	-3	1,544	+59

※発生件数等は各区内の交通事故件数であり、警察署別の統計数値と一致しない場合がある。

図 2 23 区の交通事故発生状況





## 2 交通事故による死者数

- ①全国は2,610人で、前年より26人(1.0%)減少した。
- ②東京都は132人で、前年より1人(0.8%)減少した。
- ③杉並区は4人で、前年より2人(33.3%)減少した。

図3 交通事故による死者数の推移  
(平成30年を100とした場合)

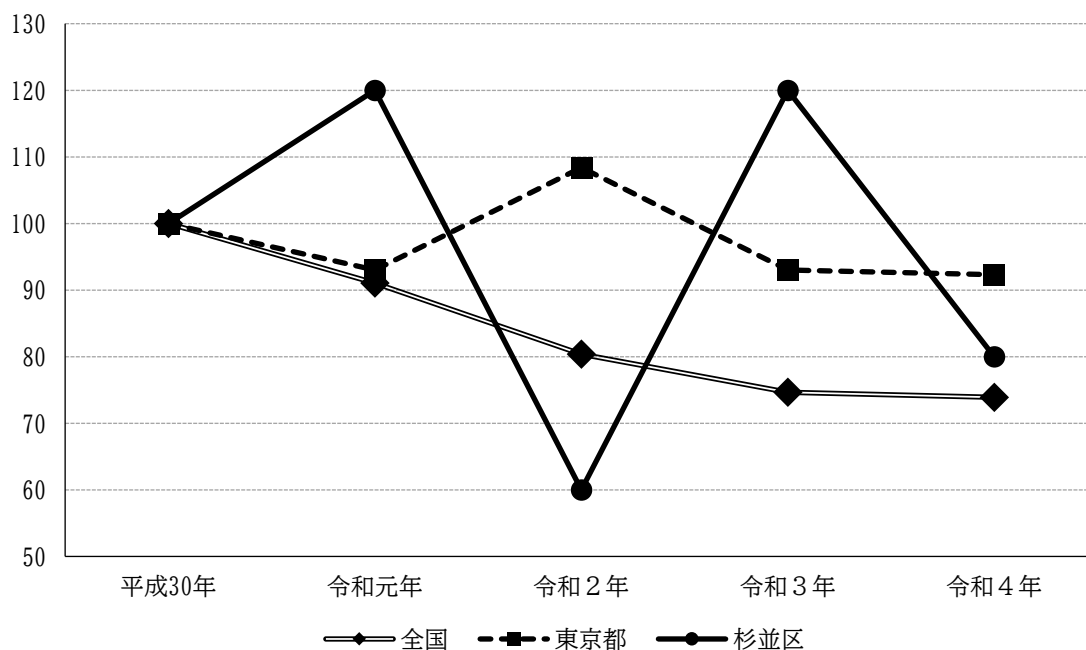


表3 交通事故による死者数の推移

		平成30年	令和元年	令和2年	令和3年	令和4年
全 国	人数	3,532	3,215	2,839	2,636	2,610
	指数	100.0	91.0	80.4	74.6	73.9
東 京 都	人数	143	133	155	133	132
	指数	100.0	93.0	108.4	93.0	92.3
杉 並 区	人数	5	6	3	6	4
	指数	100.0	120.0	60.0	120.0	80.0

※全国的人数は、警察庁の統計資料(令和5年1月4日)の数値である。

### 3 交通事故による負傷者数

- ①全国は 356,419 人で、前年より 5,712 人(1.6%)減少した。
- ②東京都は 33,429 人で、前年より 2,593 人(8.4%)増加した。
- ③杉並区は 1,018 人で、前年より 18 人(1.8%)増加した。

図4 交通事故による負傷者数の推移  
(平成30年を100とした場合)

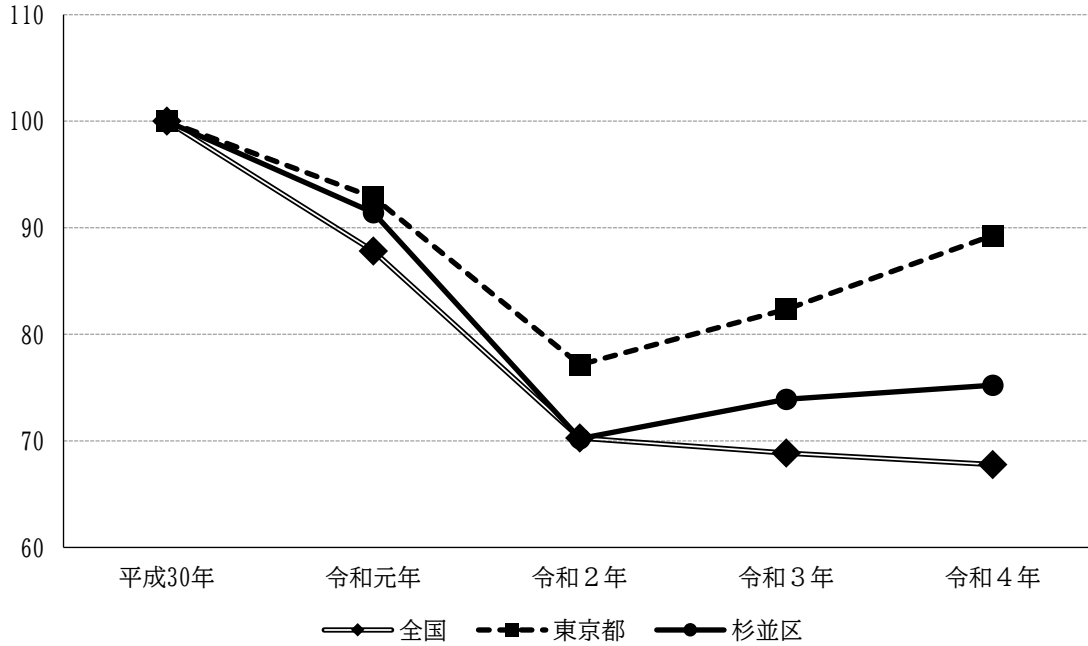


表4 交通事故による負傷者数の推移

		平成30年	令和元年	令和2年	令和3年	令和4年
全 国	人数	525,846	461,775	369,476	362,131	356,419
	指数	100.0	87.8	70.3	68.9	67.8
東 京 都	人数	37,443	34,777	28,888	30,836	33,429
	指数	100.0	92.9	77.2	82.4	89.3
杉 並 区	人数	1,353	1,237	950	1,000	1,018
	指数	100.0	91.4	70.2	73.9	75.2

※全国の人数は、警察庁の統計資料(令和5年1月4日)の数値である。

※令和3年の全国の負傷者数及び東京都の平成30年の負傷者数は遡って修正された。

## 第二章 杉並区における交通事故発生状況

### 1 死亡事故の発生状況

#### (1)死亡事故の概要

- ①死亡事故は4件で、前年より2件減少した。
- ②路線別では主要都道が3件、一般都道が1件で、いずれも都道だった。
- ③昼夜別では昼が1件、夜が3件だった。

表5 死亡事故の概要

	月日	時刻	発生場所	路線名	死亡者		相手方
					年齢	性別	
1	7/ 1	20:41	阿佐谷北六丁目	早稲田通り	50歳代	歩行者	自家用普通貨物車
2	9/26	03:05	下井草四丁目	早稲田通り	20歳代	自動二輪	単独
3	10/ 7	15:55	阿佐谷南三丁目	中杉通り	70歳代	歩行者	自家用普通貨物車
4	12/18	04:30	井草一丁目	新青梅街道	30歳代	自動二輪	自家用軽四輪乗用車

※主要都道とは、環七通り、環八通り、早稲田通り、方南通り、青梅街道、新青梅街道、五日市街道、人見街道をいう。

図5 路線別死亡事故発生状況

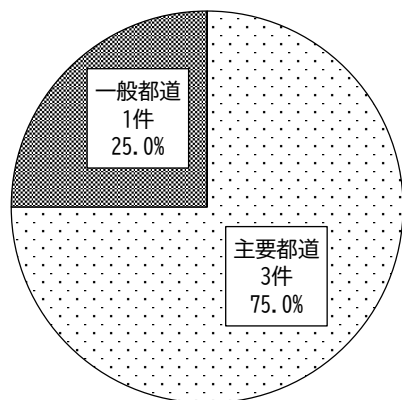
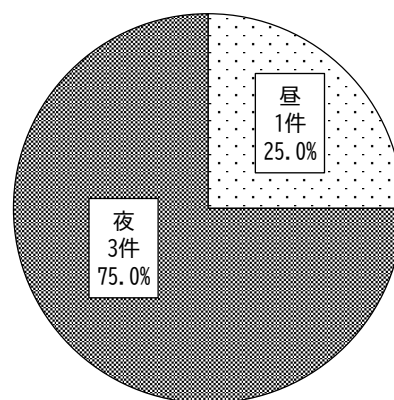


図6 昼夜別死亡事故発生状況



(2) 当事者別・年齢別死亡事故発生状況

①当事者別では、二輪車が2件、歩行者が2件だった。

②年齢別では、20歳代、30歳代、50歳代、高齢者がそれぞれ1件だった。

表6 当事者別・年齢別死亡事故発生状況

	20歳代	30歳代	50歳代	高齢者 (70歳代)	合計
乗用車					0
貨物車					0
特殊車					0
二輪車	1	1			2
自転車					0
歩行者			1	1	2
合計	1	1	1	1	4

※「高齢者」とは、年齢65歳以上をいう。

図7 当事者別死亡事故発生状況

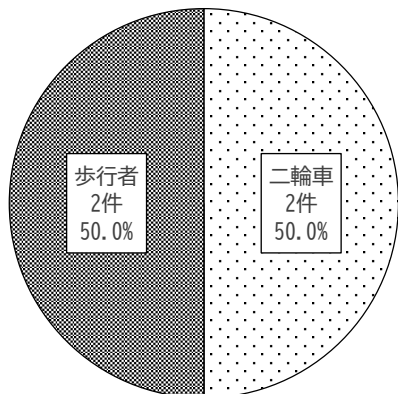
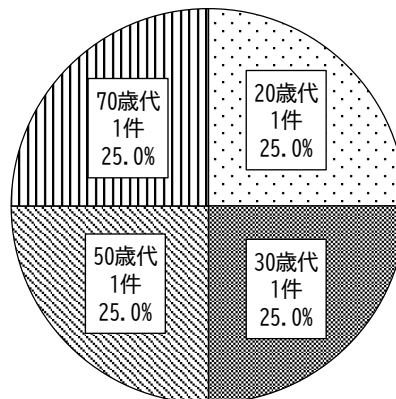


図8 年齢別死亡事故発生状況



## 2 道路種別交通事故発生状況

- ①発生件数は、主要都道が374件(41.9%)で最も多く、次いで区道が333件(37.3%)、一般都道が102件(11.4%)の順だった。
- ②道路形状別では、単路が456件(51.1%)で最も多く、次いで交差点が355件(39.8%)、交差点付近が62件(6.9%)の順だった。

図9 道路種別交通事故発生状況

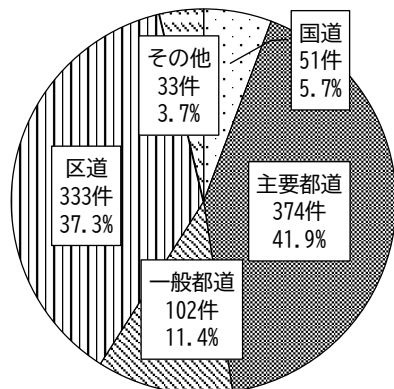


図10 道路形状別交通事故発生状況

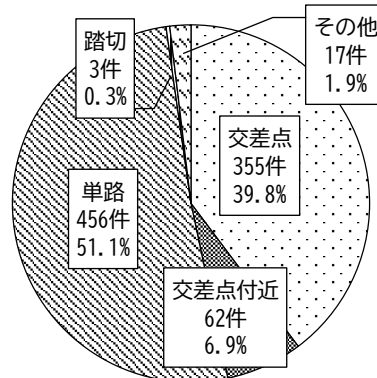


表7 道路種別交通事故発生状況

	国 道	主要都道	一般都道	区 道	自動車専用道	そ の 他
発生件数	51	374	102	333	0	33
増減数	-7	-24	+28	-6	±0	+15
死者数	0	3	1	0	0	0
重傷者数	4	29	8	21	0	1
軽傷者数	64	423	102	334	0	32

※主要都道とは、環七通り、環八通り、早稲田通り、方南通り、青梅街道、新青梅街道、五日市街道、人見街道をいう。

表8 道路形状別交通事故発生状況

	交 差 点			交差点 付 近	単 路			踏 切	そ の 他
	小 5.5m 未満	中 5.5m 以上	大 13.0m 以上		トンネル	橋	その他		
発生件数	221	88	46	62	6	7	443	3	17
増減数	+27	-5	-28	+9	-4	-2	-3	+2	+10
死者数	1	0	1	0	0	0	2	0	0
重傷者数	15	11	10	4	0	0	21	0	2
軽傷者数	229	87	39	68	7	9	498	3	15

※「交差点付近」とは、交差点の側端から30m以内の道路の部分をいう。

※「その他」とは、一般交通の用に供するその他の道路（駐車場等）をいう。

### 3 当事者別交通事故発生状況

- ①発生件数は乗用車が556件(31.1%)で最も多く、次いで自転車が473件(26.5%)、貨物車が267件(14.9%)の順だった。
- ②前年より歩行者が14件(9.5%)、自転車が13件(2.8%)増加した。一方で、乗用車は前年より55件(9.0%)減少した。
- ③自転車の発生件数は473件で、前年より13件(2.8%)増加した。
- ④重傷者数、軽傷者数はいずれも自転車が最も多かった。

図11 当事者別交通事故発生状況

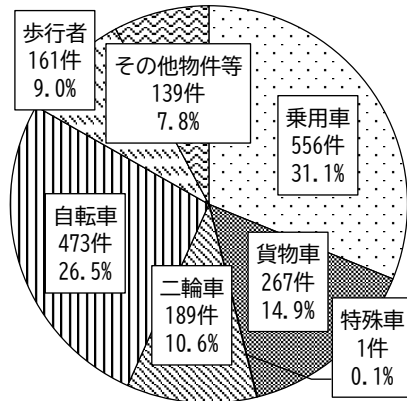


図12 自転車の交通事故発生状況

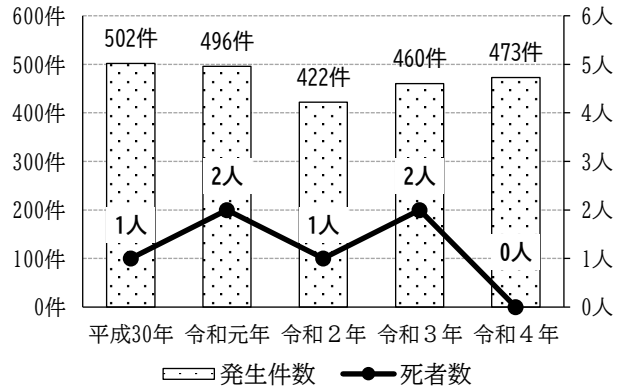


表9 当事者別交通事故発生状況

	乗用車	貨物車	特殊車	二輪車	自転車	歩行者	その他物件等
発生件数	556	267	1	189	473	161	139
増減数	-55	+6	+1	-1	+13	+14	+34
死者数	0	0	0	2	0	2	0
重傷者数	2	3	0	15	27	16	0
軽傷者数	231	79	1	139	364	141	0

※発生件数は、第1当事者、第2当事者の合計数である。

※「その他」とは路面電車、列車、自転車以外の軽車両（リヤカー、荷車等）、道路上の歩行者以外の人、道路外、ひき逃げ等で当事者不明の人をいう。

## 4 年齢別交通事故発生状況

### (1) 年齢別交通事故発生状況

- ①発生件数は、50歳代が331件(18.5%)で最も多く、次いで高齢者が306件(17.1%)、30歳代が283件(15.8%)の順だった。3世代で事故全体の51.5%を占めた。
- ②前年より30歳代が18件(6.8%)、高齢者が14件(4.8%)増加した。
- ③前年より40歳代が57件(16.9%)、20～24歳が26件(19.8%)減少した。
- ④重傷者は高齢者が19人で最も多く、軽傷者は30歳代が191人で最も多かった。

図13 年齢別交通事故発生状況

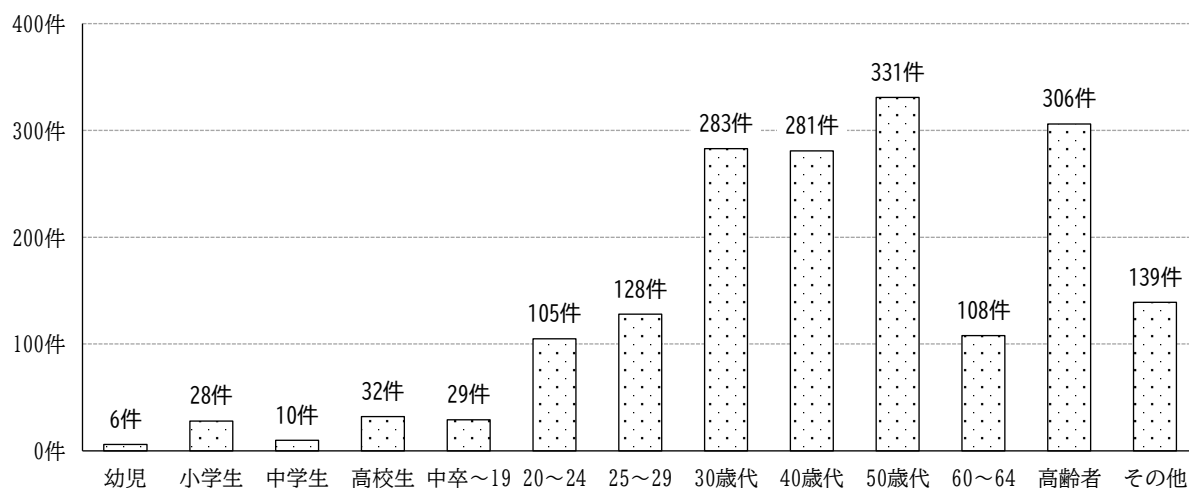


表10 年齢別交通事故発生状況

	幼 児	小 学 生	中 学 生	高 校 生	中卒～19歳	20～24 歳	25～29 歳
発生件数	6	28	10	32	29	105	128
増減数	+5	+5	-3	+7	+10	-26	-7
死者数	0	0	0	0	0	1	0
重傷者数	0	0	0	2	1	5	4
軽傷者数	15	31	11	26	18	37	73

	30 歳代	40 歳代	50 歳代	60～64歳	高 齢 者	そ の 他
発生件数	283	281	331	108	306	139
増減数	+18	-57	+1	+10	+14	+35
死者数	1	0	1	0	1	0
重傷者数	4	8	15	5	19	0
軽傷者数	191	170	177	53	153	0

※発生件数は、第1当事者、第2当事者の合計数である。

※「幼児」とは、児童福祉法に定められる、満一歳から小学校就学始期に達するまでをいう。

※「その他」とは、ひき逃げ等で不明な場合、物件等をいう。

## (2) 子どもの交通事故発生状況

- ①発生件数は44件で、前年より7件(18.9%)増加した。
- ②過去5年間、子どもの死亡事故は発生していない。
- ③重傷者は0人、軽傷者は57人だった。前年より重傷者が4人(100.0%)減少し、軽傷者が16人(39.0%)増加した。
- ④当事者別では、自転車が23件(52.3%)、歩行者が21件(47.7%)だった。前年より自転車4件(14.8%)減少し、歩行者が11件(110.0%)増加した。
- ⑤自転車、歩行者のいずれも小学生の発生件数が最も多くなっている。

図14 子どもの交通事故発生状況

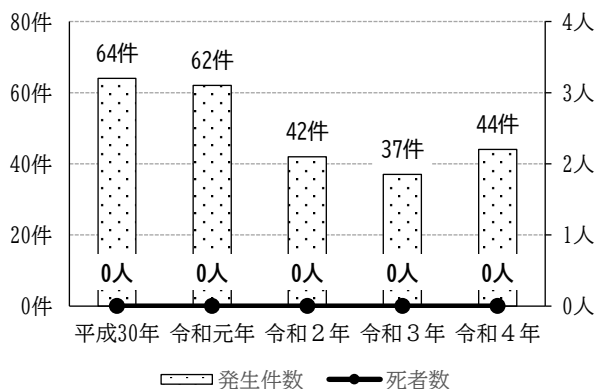


図15 子どもの当事者別発生状況

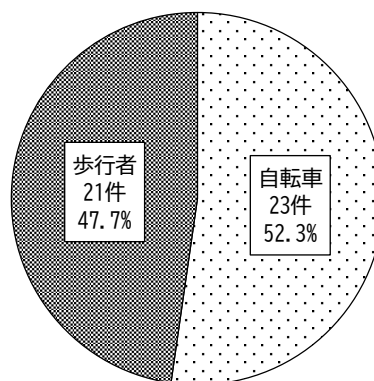


表11 子どもの交通事故発生状況

	発生件数	死者数	重傷者数	軽傷者数
令和4年	44	0	0	57
増減数	+7	±0	-4	+16
令和3年	37	0	4	41

※発生件数は、第1当事者、第2当事者の合計数である。  
 ※「子ども」とは、幼児、小学生、中学生を合わせたものをいう。

表12 子どもの当事者別発生状況

	自転車			歩行者			合計
	幼児	小学生	中学生	幼児	小学生	中学生	
発生件数	0	15	8	6	13	2	44
増減数	-1	+2	-5	+6	+3	+2	+7

※発生件数は、第1当事者、第2当事者の合計数である。  
 ※「子ども」とは、幼児、小学生、中学生を合わせたものをいう。



### (3) 高齢者の交通事故発生状況

- ①発生件数は306件で、前年より14件(4.8%)増加した。
- ②死者数は1人で、前年と同じだった。
- ③重症者は19人、軽傷者は153人だった。前年より重傷者が12人(38.7%)減少し、軽傷者数が12人(8.5%)増加した。

表 13 高齢者の交通事故発生状況

	発生件数	死者数	重傷者数	軽傷者数
令和4年	306	1	19	153
増減数	+14	±0	-12	+12
令和3年	292	1	31	141

※発生件数は、第1当事者、第2当事者の合計数である。  
 ※「高齢者」とは年齢65歳以上をいう。

図 16 高齢者の交通事故発生状況

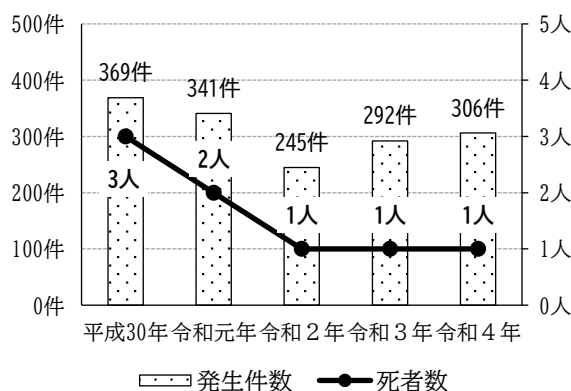
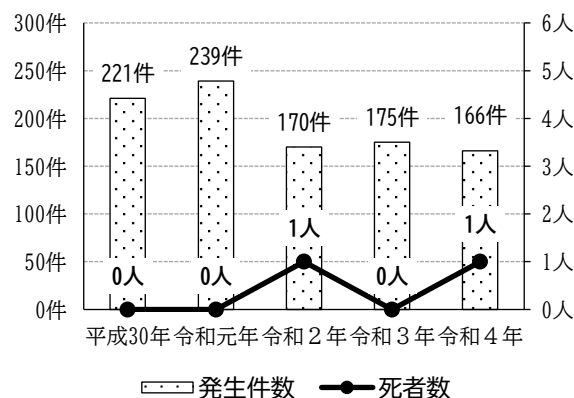


図 17 若年層の交通事故発生状況



### (4) 若年層の交通事故発生状況

- ①発生件数は166件で、前年より9件(5.1%)減少した。
- ②死者数は1人で、前年より1人増加した。
- ③重傷者数は8人、軽傷者数は81人だった。前年より重傷者が4人(33.3%)減少し、軽傷者数が1人(1.3%)増加した。

表 14 若年層の交通事故発生状況

	発生件数	死者数	重傷者数	軽傷者数
令和4年	166	1	8	81
増減数	-9	+1	-4	+1
令和3年	175	0	12	80

※発生件数は、第1当事者、第2当事者の合計数である。  
 ※「若年層」とは、高校生、中学校卒業～19歳、20歳～24歳を合わせたものをいう。

## 5 事故類型別交通事故発生状況

### (1) 事故類型別交通事故発生状況

- ①発生件数は人対車両が161件(18.0%)、車両相互が605件(67.7%)、車両単独が127件(14.2%)だった。車両相互の事故が事故全体の67.7%を占めている。
- ②死者数は人対車両が2人、車両相互と車両単独がそれぞれ1人だった。前年より人対車両が1人増加し、車両相互が3人減少した。
- ③重傷者数は人対車両が15人、車両相互が47人、車両単独が1人だった。前年より人対車両が7人(31.8%)、車両相互が22人(31.9%)、車両単独が9人(90.0%)減少した。
- ④軽傷者数は人対車両が149人、車両相互が680人、車両単独が126人だった。前年より人対車両が23件(18.3%)、車両単独が49件(63.6%)増加した。車両相互は前年より16人(2.3%)減少した。
- ⑤列車の事故は令和4年中、発生しなかった。

図 18 事故類型別交通事故発生状況

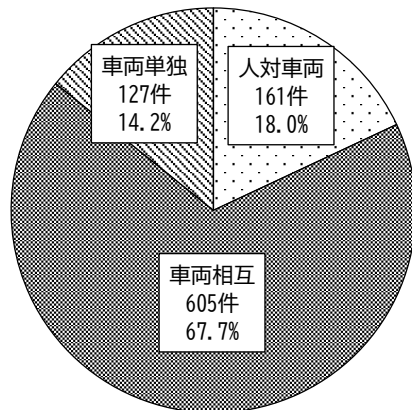


表 15 事故類型別交通事故発生状況

	人 対 車 両				車 両 相 互			
	発生件数	死者数	重傷者数	軽傷者数	発生件数	死者数	重傷者数	軽傷者数
令和4年	161	2	15	149	605	1	47	680
増減数	+14	+1	-7	+23	-50	-3	-22	-16
令和3年	147	1	22	126	655	4	69	696

	車 両 単 独				列 車			
	発生件数	死者数	重傷者数	軽傷者数	発生件数	死者数	重傷者数	軽傷者数
令和4年	127	1	1	126	0	0	0	0
増減数	+42	±0	-9	+49	±0	±0	±0	±0
令和3年	85	1	10	77	0	0	0	0

(2)事故類型別交通事故発生状況の内訳

①人対車両の発生件数は、横断中が66件(41.0%)で最も多く、次いで対面・背面通行中が48件(29.8%)だった。

②車両相互の発生件数は、出会い頭が194件(32.1%)で最も多く、次いで追突が179件(29.6%)、追越追抜時が63件(10.4%)の順だった。

図 19 人対車両の交通事故発生状況

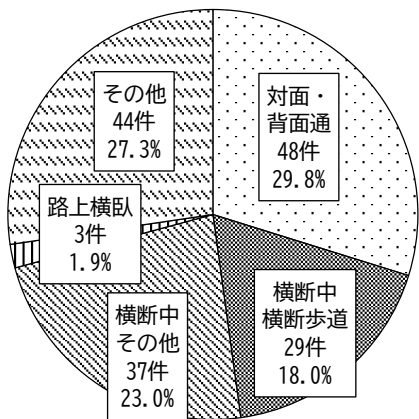


図 20 車両相互の交通事故発生状況

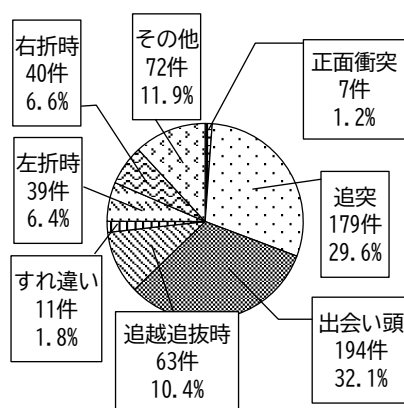


表 16 事故類型別交通事故発生状況の内訳

	人 対 車 両				
	対面・背面 通行中	横 断 中		路上横臥	その他
		横断歩道	その他		
発生件数	48	29	37	3	44
増減数	-4	-5	+12	+2	+9
死者数	0	1	0	1	0
重症者数	2	2	7	1	3
軽傷者数	47	26	33	1	42

	車 両 相 互							
	正面衝突	追 突	出会い頭	追越追抜時	すれ違い	左折時	右折時	その他
発生件数	7	179	194	63	11	39	40	72
増減数	-4	-25	-29	-1	±0	+4	-1	+6
死者数	1	0	0	0	0	0	0	0
重傷者数	1	7	16	5	0	6	6	6
軽傷者数	10	238	204	70	12	36	37	73

※人対車両－横断中の「その他」は横断歩道付近、横断歩道橋付近、それら以外の場所をいう。  
 ※人対車両の「その他」は、一般の交通の用に供するその他の道路(駐車場等)の場合等をいう。  
 ※車両相互の「その他」は、後退した際に自車後部を後車前部に衝突させた場合等をいう。

## 6 昼夜別交通事故発生状況

- ①発生件数は、昼が 656 件(73.5%)、夜が 237 件(26.5%)だった。前年より昼が 20 件(3.0%)減少し、夜が 26 件(12.3%)増加した。
- ②死者数は、昼が 1 人で前年と同じ、夜が 3 人で前年より 2 人減少した。
- ③重傷者数は、昼が 43 人(68.3%)、夜が 20 人(31.7%)だった。前年より昼が 31 人(41.9%)減少し、夜が 7 人(25.9%)減少した。
- ④軽傷者数は、昼が 700 人(73.3%)、夜が 255 人(26.7%)だった。前年より昼が 25 人(3.7%)増加し、夜が 31 人(13.8%)増加した。

図 21 昼夜別交通事故発生状況

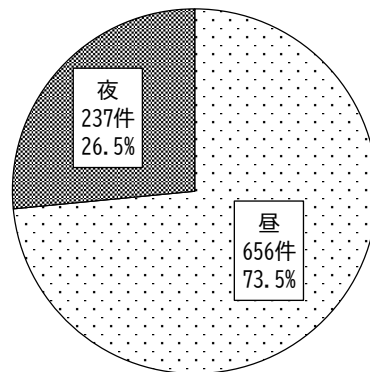


表 17 昼夜別交通事故発生状況

	昼				夜			
	発生件数	死者数	重傷者数	軽傷者数	発生件数	死者数	重傷者数	軽傷者数
令和 4 年	656	1	43	700	237	3	20	255
増減数	-20	±0	-31	+25	+26	-2	-7	+31
令和 3 年	676	1	74	675	211	5	27	224

※昼とは、日の出から日の入りまでの時間をいう。

※夜とは、日の入りから次の日の出までの時間をいう。

## 7 時間帯別交通事故発生状況

- ①発生件数は、10時～12時が133件(14.9%)で最も多く、次いで8時～10時が126件(14.1%)、12時～14時が122件(13.7%)の順だった。
- ②前年より16時～18時が29件(22.0%)、8時～10時が11件(8.0%)減少した。
- ③死者数は2時～4時、4時～6時、14時～16時、20時～22時で各1人だった。
- ④重傷者数は8時～10時が15人で最も多く、軽傷者数は10時～12時が139人で最も多くなった。

図 22 時間帯別交通事故発生状況

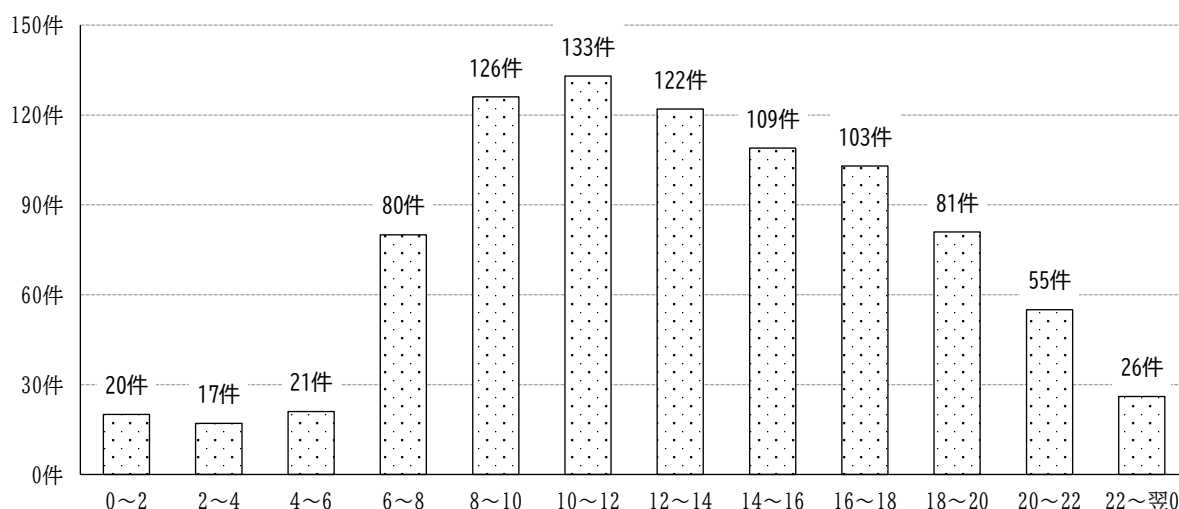


表 18 時間帯別交通事故発生状況

時間帯	0時～2時	2時～4時	4時～6時	6時～8時	8時～10時	10時～12時
発生件数	20	17	21	80	126	133
増減数	+1	+3	+7	+8	-11	-1
死者数	0	1	1	0	0	0
重傷者数	2	3	3	5	15	7
軽傷者数	20	19	18	89	123	139

時間帯	12時～14時	14時～16時	16時～18時	18時～20時	20時～22時	22時～翌0時
発生件数	122	109	103	81	55	26
増減数	+7	+7	-29	+4	+4	+6
死者数	0	1	0	0	1	0
重傷者数	5	2	8	3	7	3
軽傷者数	137	125	105	95	55	30

## 8 車両側の違反による交通事故発生状況

- ①発生件数は635件で、前年より30件(4.5%)減少した。  
 ②違反別では、安全不確認が184件(29.0%)で最も多く、次いで交差点安全進行違反が123件(19.4%)、前方不注意が106件(16.7%)の順だった。

図 23 車両側の違反による交通事故発生状況

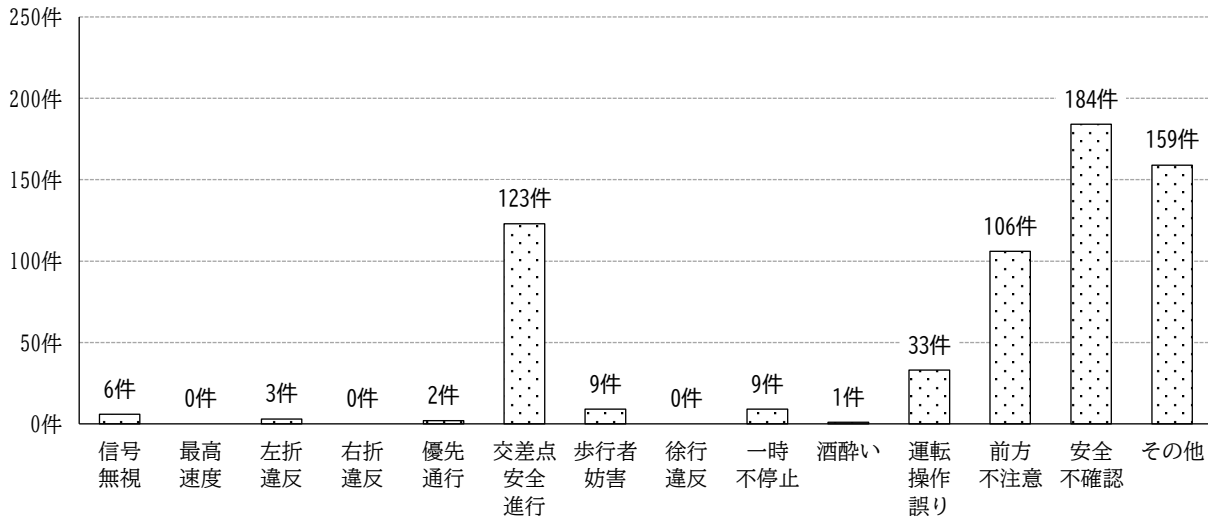


表 19 車両側の違反による交通事故発生状況

	信号無視	最高速度	左折違反	右折違反	優先通行	交差点安全進行	歩行者妨害	徐行違反
発生件数	6	0	3	0	2	123	9	0
増減数	-12	±0	+1	±0	-2	+6	-3	±0
死者数	0	0	0	0	0	0	1	0
重傷者数	0	0	2	0	2	9	2	0
軽傷者数	7	0	1	0	0	121	6	0

	一時不停止	酒酔い	運転操作誤り	前方不注意	安全不確認	その他	合計
発生件数	9	1	33	106	184	159	635
増減数	+2	±0	-6	-14	-7	+5	-30
死者数	0	1	1	0	0	0	3
重傷者数	1	0	1	6	8	7	38
軽傷者数	13	0	44	128	196	191	707

※発生件数は、原付以上の車両による事故で、第1当事者の件数である。  
 ※死者数、重症者数、軽傷者数は、第1当事者の違反別事故全体の人数である。  
 ※「その他」とは、ひき逃げ等で不明な場合及び物件等をいう。

## 9 歩行者の違反による交通事故発生状況

- ①違反による発生件数は23件で、前年より10件(76.9%)増加した。
- ②違反別では、飛び出しが7件(30.4%)で最も多く、次いで、横断禁止場所横断が6件(26.1%)、めいてい・徘徊が3件(13.0%)の順だった。
- ③歩行者に違反がない事故は138件で、歩行者関与事故の85.7%を占めている。

図 24 歩行者の違反による交通事故発生状況

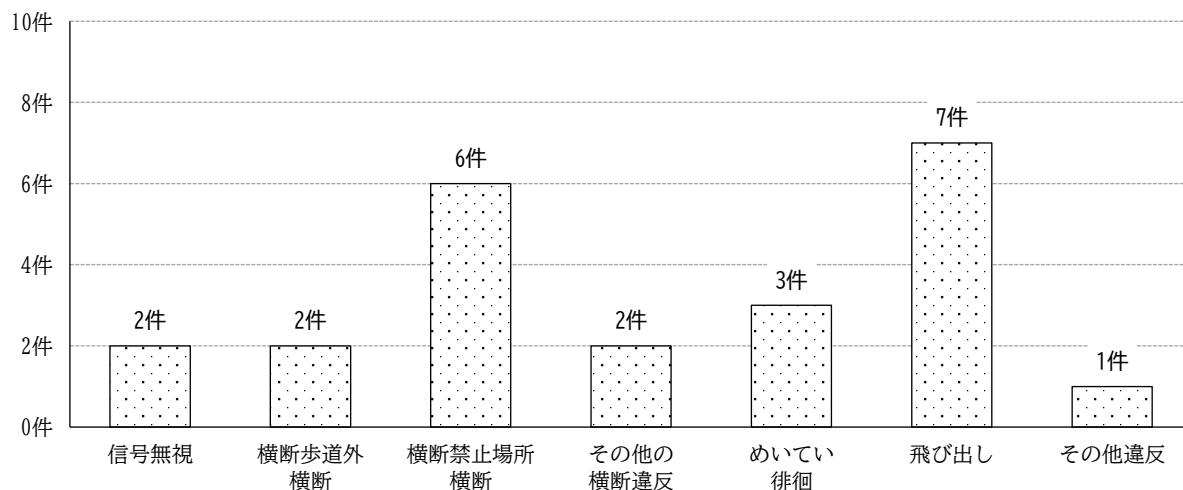


表 20 歩行者の違反による交通事故発生状況

	信号無視	横断歩道外横断	横断禁止場所横断	その他横断違反	めいてい徘徊	飛び出し	その他違反	合計	違反なし
発生件数	2	2	6	2	3	7	1	23	138
増減数	+2	-2	+2	+1	+2	+6	-1	+10	+4
死者数	0	0	0	0	1	0	0	1	1
重傷者数	0	0	4	1	1	0	0	6	10
軽傷者数	2	2	2	1	1	6	1	15	126

※発生件数は、第1当事者、第2当事者の合計数である。

### 第三章 杉並区内各警察署管内における交通事故発生状況

#### 1 杉並警察署管内

##### (1)交通事故発生状況

①発生件数は296件で、前年より38件(11.4%)減少した。

②死者数は2人で、前年と同じだった。

③重傷者数は22人、軽傷者数は307人だった。

前年より重傷者数が18人(45.0%)、軽傷者数が20人(6.1%)減少した。

表 21 杉並警察署内交通事故発生状況

	発生件数	死者数	重傷者数	軽傷者数
令和4年	296	2	22	307
増減数	-38	±0	-18	-20
令和3年	334	2	40	327

※各警察署の件数等は取り扱い件数であり、その合計数と区内の発生件数等は必ずしも一致しない。

図 25 交通事故発生件数の推移  
(平成30年を100とした場合)

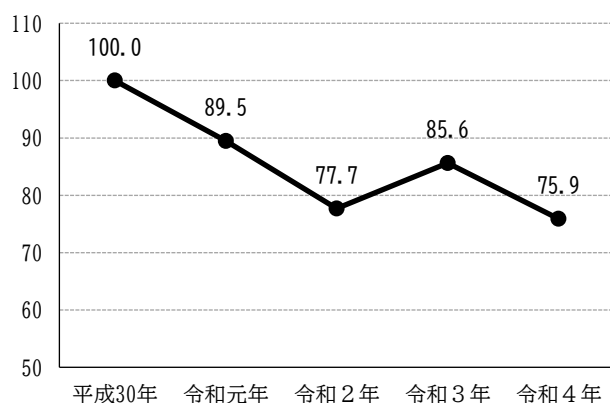
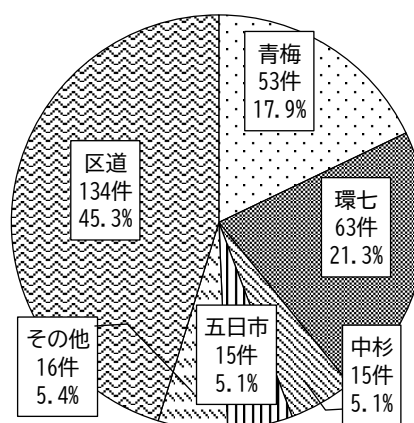


図 26 路線別交通事故発生状況



##### (2)路線別交通事故発生状況

①発生件数は、環七通りが63件(21.3%)で最も多く、次いで青梅街道が53件(17.9%)、その他の都道が16件(5.4%)の順だった。

環七通りと青梅街道で全体の39.2%を占めた。

②区道の発生件数は134件で、前年より2件増加した。

表 22 路線別交通事故発生状況

	青梅街道	環七通り	中杉通り	五日市街道	その他の都道	区道
発生件数	53	63	15	15	16	134
増減数	-29	-6	±0	-4	-1	+2

※発生件数は、警視庁文書課提供の数値である。



### (3) 当事者別交通事故発生状況

①発生件数は、自転車が186件(31.4%)で最も多く、次いで乗用車が147件(24.8%)、貨物車が97件(16.4%)の順だった。

②前年より乗用車が45件(23.4%)、自転車が11件(5.6%)減少した。

表 23 当事者別交通事故発生状況

	乗用車	貨物車	特殊車	二輪車	自転車	歩行者	その他物件等
発生件数	147	97	0	68	186	55	39
増減数	-45	-5	±0	-7	-11	+1	-9

表 24 自転車の相手当事者別事故件数

※自転車相互事故は1事故2件になっている。

	乗用車	貨物車	二輪車	自転車※	歩行者	その他 (相手不明、単独等)
発生件数	35	36	15	56	16	28

※表 23、表 24 の発生件数は、第1当事者、第2当事者の合計数である。

自転車関与率：(自転車事故件数－自転車相互件数)÷発生件数＝53.4%

図 27 当事者別交通事故発生状況

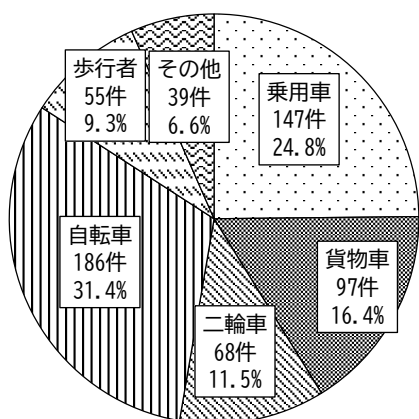
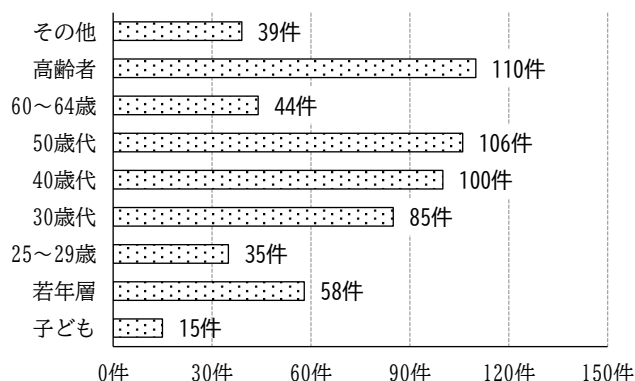


図 28 年齢別交通事故発生状況



### (4) 年齢別交通事故発生状況

①年齢別では、高齢者が110件(18.6%)で最も多く、次いで50歳代が106件(17.9%)、40歳代が100件(16.9%)だった。

②前年より40歳代が27件(21.3%)、50歳代が21件(16.5%)、25歳～29歳が16件(31.4%)、30歳代が15件(15.0%)減少した。

表 25 年齢別交通事故発生状況

	子ども	若年層	25歳 ～ 29歳	30歳代	40歳代	50歳代	60歳 ～ 64歳	高齢者	その他
発生件数	15	58	35	85	100	106	44	110	39
増減数	-2	+1	-16	-15	-27	-21	+4	+4	-8

※発生件数は第1当事者、第2当事者の合計数である。

※「子ども」は、幼児、小学生、中学生を合わせたもの、「若年層」は、高校生と中卒～19歳、20～24歳を合わせたもの、「高齢者」は、年齢65歳以上をいう。

※「その他」は、ひき逃げ等で不明な場合、物件等をいう。

## 2 高井戸警察署管内

### (1) 交通事故発生状況

- ①事故件数は383件で、前年より69件増加した。
- ②死者数は0人で、前年より4人減少した。
- ③重傷者数は23人で、前年より19人減少した。  
軽傷者数は411人で、前年より93人増加した。

表 26 交通事故発生状況

	発生件数	死者数	重傷者数	軽傷者数
令和4年	383	0	23	411
増減数	+69	-4	-19	+93
令和3年	314	4	42	318

図 29 交通事故発生件数の推移  
(平成30年を100とした場合)

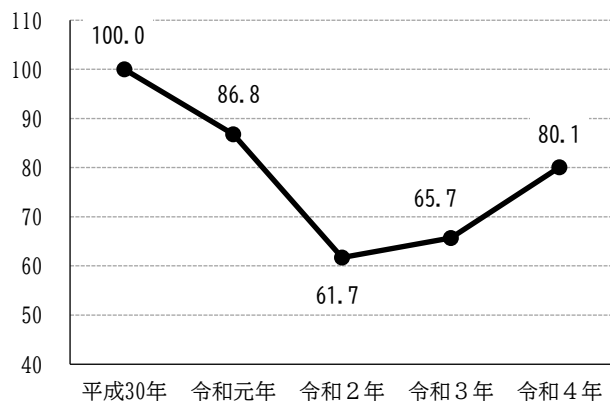
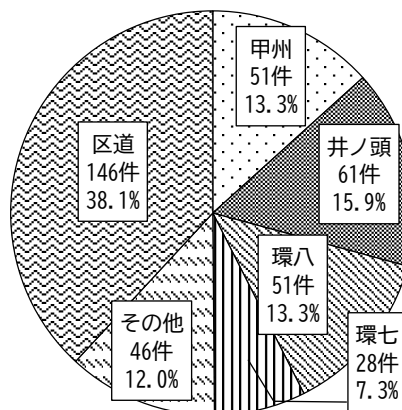


図 30 路線別交通事故発生状況



### (2) 路線別交通事故発生状況

- ①路線別では、井ノ頭通りが61件(15.9%)で最も多く、次いで甲州街道と環八通りがともに51件(13.3%)の順だった。この三路線で全体の42.6%を占めた。
- ②前年より井ノ頭通りが26件(74.3%)増加した。
- ③区道の発生件数は146件(38.1%)で、前年より57件(64.0%)増加した。

表 27 路線別交通事故発生状況

	甲州街道	井ノ頭通り	環八通り	環七通り	その他の都道	区道
発生件数	51	61	51	28	46	146
増減数	-4	+26	-1	±0	-9	+57

※発生件数は、警視庁文書課提供の数値による。

### (3) 当事者別交通事故発生状況

①当事者別では、乗用車が252件(32.9%)で最も多く、次いで自転車が186件(24.3%)、貨物車が100件(13.1%)だった。

②前年より乗用車が39件(18.3%)、自転車が38件(25.7%)増加した。

表28 当事者別交通事故発生状況

	乗用車	貨物車	特殊車	二輪車	自転車	歩行者	その他物件等
発生件数	252	100	1	77	186	66	84
増減数	+39	+3	+1	+8	+38	+18	+31

表29 自転車の相手当事者別事故件数

※自転車相互事故は1事故2件になっている。

	乗用車	貨物車	二輪車	自転車※	歩行者	その他 (相手不明、単独等)
発生件数	42	14	9	30	20	71

※表28、表29の発生件数は、第1当事者、第2当事者の合計数である。

自転車関与率：(自転車事故件数－自転車相互件数)÷発生件数=44.6%

図31 当事者別交通事故発生状況

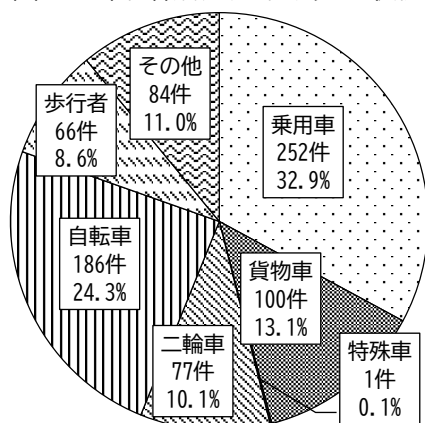
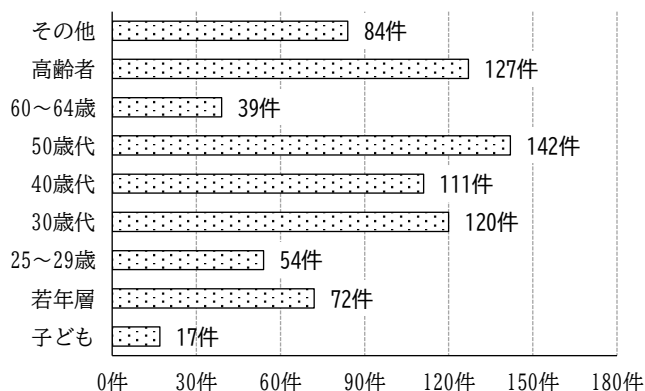


図32 年齢別交通事故発生状況



### (4) 年齢別交通事故発生状況

①年齢別では、50歳代の142件(18.5%)が最も多く、次いで高齢者の127件(16.6%)、30歳代の120件(15.7%)だった。

②事故件数は、50歳代が前年より44件(44.9%)、30歳代が前年より40件(50.0%)、高齢者が21件(19.8%)増えた。40歳代は前年より12件(9.8%)減った。

表30 年齢別交通事故発生状況

	子ども	若年層	25歳 ～ 29歳	30歳代	40歳代	50歳代	60歳 ～ 64歳	高齢者	その他
発生件数	17	72	54	120	111	142	39	127	84
増減数	+4	+1	±0	+40	-12	+44	+9	+21	+31

※発生件数は、第1当事者、第2当事者の合計数である。

※「子ども」は、幼児、小学生、中学生を合わせたものをいう。

※「若年層」は、高校生と中卒～19歳、20～24歳を合わせたものをいう。

※「その他」とは、ひき逃げ等で不明な場合や物件等をいう。

### 3 荻窪警察署管内

#### (1) 交通事故発生状況

- ①発生件数は218件で、前年より16件(6.8%)減少した。
- ②死者数は2人で、前年より2人増加した。
- ③重傷者数は17人で、前年より2人(10.5%)減少し、軽傷者数は241人で、前年より8人(3.2%)減少した。

表 31 交通事故発生状況

	発生件数	死者数	重傷者数	軽傷者数
令和4年	218	2	17	241
増減数	-16	+2	-2	-8
令和3年	234	0	19	249

図 33 交通事故発生件数の推移  
(平成30年を100とした場合)

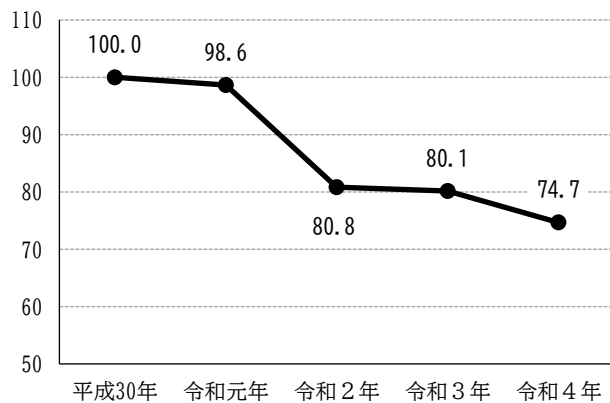
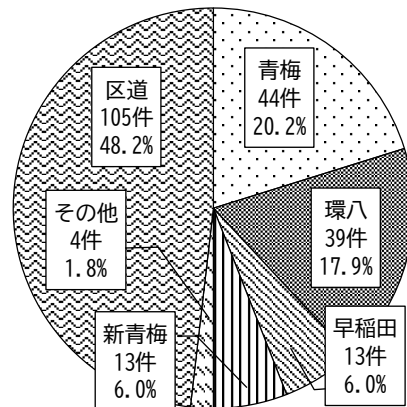


図 34 路線別交通事故発生状況



#### (2) 路線別交通事故発生状況

- ①路線別では、青梅街道が44件(20.2%)と最も多く、次いで環八通りが39件(17.9%)、早稲田通りと新青梅街道がともに13件(6.0%)の順だった。青梅街道と環八通りで、全体の38.1%を占めた。
- ②区道の発生件数は105件(48.2%)で、前年より12件(10.3%)減った。

表 32 路線別交通事故発生状況

	青梅街道	環八通り	早稲田通り	新青梅街道	その他の都道	区道
発生件数	44	39	13	13	4	105
増減数	+3	-3	-2	+3	-5	-12

※発生件数は、警視庁総務部文書課提供の数値である。

### (3) 当事者別交通事故発生状況

- ①当事者別では乗用車が161件(36.9%)と最も多く、次いで自転車が105件(24.1%)、貨物車が72件(16.5%)の順だった。
- ②乗用車が前年より40件(19.9%)減った。また、貨物車が前年より10件(16.1%)、その他物件等が前年より12件(400.0%)増えた。

表 33 当事者別交通事故発生状況

	乗用車	貨物車	特殊車	二輪車	自転車	歩行者	その他物件等
発生件数	161	72	0	44	105	39	15
増減数	-40	+10	±0	-2	-6	-6	+12

表 34 自転車の相手当事者別事故件数 ※自転車同士は1事故につき2件になっている。

	乗用車	貨物車	二輪車	自転車※	歩行者	その他 (相手不明、単独等)
発生件数	34	23	9	22	8	9

※表 33、表 34 の発生件数は第1当事者、第2当事者の合計数である。

自転車関与率：(自転車事故件数－自転車相互件数)÷発生件数＝43.1%

図 35 当事者別交通事故発生状況

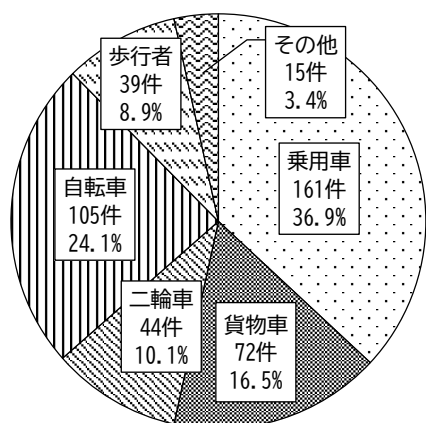
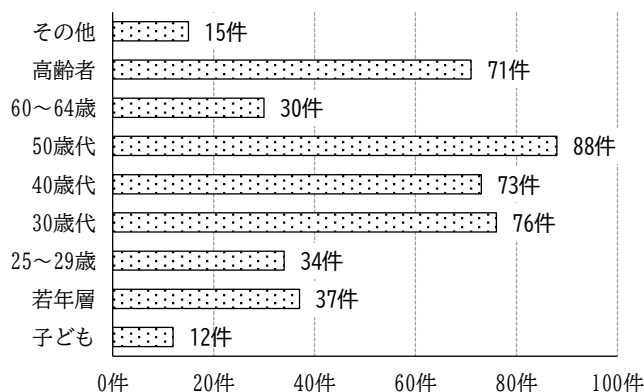


図 36 年齢別交通事故発生件数



### (4) 年齢別交通事故発生状況

- ①年齢別では、50歳代の88件(20.2%)が最も多く、次いで30歳代の76件(17.4%)、40歳代の73件(16.7%)だった。
- ②前年より50歳代が15件(14.6%)、40歳代が12件(14.1%)減少した。

表 35 年齢別交通事故発生状況

	子ども	若年層	25歳～29歳	30歳代	40歳代	50歳代	60歳～64歳	高齢者	その他
発生件数	12	37	34	76	73	88	30	71	15
増減数	+1	-11	+3	-8	-12	-15	+3	-5	+12

※発生件数は、第1当事者、第2当事者の合計数である。

※「子ども」は、幼児、小学生、中学生を合わせたもの、「若年層」は、高校生、中卒～19歳、20～24歳を合わせたもの、「高齢者」は年齢65歳以上をいう。

※「その他」は、ひき逃げ等で不明な場合や物件等をいう。



杉並区の交通事故概要  
(令和4年1月～12月)

登録印刷物番号

令和5年3月発行

04-0125

発行 杉並区都市整備部杉並土木事務所  
杉並区交通安全協議会

編集 杉並区都市整備部杉並土木事務所  
(杉並区交通安全協議会事務局)  
〒166-0015 杉並区成田東三丁目17番30号

電話 03-3315-4178